

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行う。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行う。

科学研究費補助金

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、積極的に申請して文化財に関する研究活動を進めている。科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、補助事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として機関に措置される。

令和4年度科学研究費は、継続課題として科学研究費補助金によるものが3件、学術研究助成基金助成金によるものが7件、新規に採択された課題は科学研究費補助金によるものが2件、学術研究助成基金助成金による課題3件であった。

1. 継続研究課題

〈補助金〉

基盤研究（A）一般

「出土金属製文化財の保存処理に使用された樹脂の寿命予測について」

令和2年度～令和5年度 植田直見 35,800千円（研究期間直接経費合計額）

基盤研究（B）一般

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成29年度～令和4年度 雨森久晃 11,600千円（研究期間直接経費合計額）

「保存処理に起因する出土木製品の強度低下について ―調査と対策―」

令和3年度～令和7年度 川本耕三 13,800千円（研究期間直接経費合計額）

〈基金〉

基盤研究（C）基金

「古代中世東アジアにおける服装の伝播と地域性に関する研究―髪型と装身具を中心に―」

令和2年度～令和5年度 木沢直子 3,300千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、延長）

「寺院伝来の文献史料および文字史料の総合による中近世寺院史料学の構築」

令和2年度～令和5年度 三宅徹誠 1,900千円（研究期間直接経費合計額）

「天然素材から合成素材へー現代歴史資料の保存に関する研究」

令和2年度～令和5年度 金山正子 2,800千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、延長）

「武器・武具の祭祀利用の受容と展開」

令和3年度～令和5年度 塚本敏夫 3,300千円（研究期間直接経費合計額）

若手研究

「中世木札文書の史料学的研究」

令和元年度～令和5年度 服部光真 1,900千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、延長）

「城郭石垣の構築に用いられた石工技術の基礎的研究」

令和元年度～令和5年度 坂本 俊 2,900千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、再延長）

「水損した民俗文化財における鉄汚染被害の解明と対処方法の構築」

令和2年度～令和5年度 金澤 馨 3,100千円（研究期間直接経費合計額）
（進捗状況遅れの為、延長）

2. 新規研究課題

〈補助金〉

基盤研究（A）補助金

「地球温暖化による劇的環境変動に適応した石造文化遺産の調査・保存法の総合的研究」

令和4年度～令和7年度 田邊征夫 32,200千円（研究期間直接経費合計額）

基盤研究（B）補助金

「中性子非弾性散乱法による出土琥珀の産地推定」

令和4年度～令和7年度 山口繁生 12,700千円（研究期間直接経費合計額）

〈基金〉

基盤研究（C）基金

「膠着剤のオリジナルな姿を後世に遺せるかー大豆系膠着剤の可逆的な処理法を探るー」

令和4年度～令和6年度 大橋有佳 3,000千円（研究期間直接経費合計額）

「木製品の構造と機能の調和に関する実証的研究ー工学的解析を用いてー」

令和4年度～令和7年度 桃井宏和 3,200千円（研究期間直接経費合計額）

「図化困難資料の活用を目指した3Dデータ取得・編集・出力に関わる研究」

令和4年度～令和6年度 初村武寛 3,200千円（研究期間直接経費合計額）

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査修復研究グループ

人文学担当

奈良県桜井市	総本山長谷寺文化財等保存調査事業
大阪府松原市	市内文化財総合調査業務委託
奈良市	華嚴宗元興寺所蔵資料の総合調査（彫刻）
奈良市	浄土宗念仏寺寺史編纂および記念展覧会開催業務
奈良県宇陀市	大本山室生寺古文書・聖教調査整理事業
愛媛県	札所の文化財詳細調査業務
大阪府高槻市	高槻市立しろあと歴史館古文書史料目録作成業務
静岡県富士宮市	静岡県富士山世界遺産センター収蔵予定資料整理業務

寺院を対象とする継続的な総合調査事業として、長谷寺の文化財等保存調査事業では、古文書・古記録、聖教類、工芸品などについての調査・整理を実施した。松原市の浄土真宗善正寺の総合調査では、美術工芸品を対象に調査・整理を実施した。華嚴宗元興寺の総合調査は、彫刻資料について実施し、報告書を刊行した。なお、当事業は公益財団法人大和文化財保存会から助成を受けた。室生寺では、古文書・聖教の調査・整理を実施した。

念仏寺の寺史編さん事業では、所蔵文化財の総合調査を経て、元興寺法輪館にて秋季特別展を実施し、図録を兼ねた書籍を一般社団法人なら文化交流機構の協力を得て刊行した。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物、石造物、絵画、工芸、彫刻、古文書・古記録、聖教等を対象とするものである。愛媛県では太山寺、延命寺、円明寺、栄福寺、国分寺の調査を実施した。それぞれ報告書刊行のための文化財目録・報告文を提出した。

なお、平成31年度から調査を行った八坂寺の報告書が愛媛県から刊行された。

その他、古文書や工芸品などの目録作成及び整理作業などを行い、それぞれ資料化し報告した。

考古学担当

〈発掘調査〉

奈良市	平城京左京五条五坊十一・十四坪発掘調査整理報告書作成業務
奈良市	平城京右京北辺三坊五・六坪発掘調査整理報告書作成業務
奈良県生駒市	北田原城跡の発掘調査に関する業務
滋賀県野洲市	市三宅東遺跡発掘調査整理報告書作成業務

〈整理報告〉

奈良市	平城京左京五条五坊十一坪発掘調査整理報告業務
奈良市	菅原遺跡発掘調査整理報告書作成業務
奈良市	平城京左京三条四坊十一坪発掘調査整理報告業務
奈良県高取町	越智遺跡発掘調査整理報告業務

〈石造品調査〉

和歌山県高野町教育委員会 史跡金剛峯寺旧境内（奥院地区）

大名墓総合調査業務に係る委託業務

大阪大谷大学（富田林市） 伊勢市慶光院墓地・今北山墓地石塔群図面整理業務

発掘調査業務は4件行い、奈良市内が2件、生駒市内が1件、滋賀県内が1件であった。奈良市内の発掘調査はいずれも平城京内を対象とするもので、平城京の条坊道路に関わる遺構など奈良時代を中心に成果をあげた。

生駒市北田原城跡の発掘調査はこれまで調査経験のない山城の調査であったが、山城の使用時期とともにその構造についても明らかにすることができた。令和5年5月に生駒ふるさとミュージアムで行われる速報展示に出土遺物を提供することになっている。

野洲市市三宅東遺跡の発掘調査は平成30年度の発掘調査区に隣接する地点での調査であったが、今回この遺跡は人間の活動の痕跡が極めて少なく、遺跡の縁辺部といえる状況を明らかにした。上記の4件は令和5年度に整理報告業務を行う予定である。

整理報告業務では、令和2年度に受託した発掘調査のうち未報告であった菅原遺跡、令和3年度に発掘調査を行った奈良市平城京左京三条四坊十一坪、高取町越智遺跡を対象として行い、それぞれ令和5年3月に発掘調査報告書を刊行した。令和4年度当初に報告書刊行予定であった平城京左京五条五坊十一坪については、令和4年度に新たに同一敷地内で発掘調査を実施したため、報告書を合わせて刊行することに変更となっている。

石造物関係の調査は2件受託している。金剛峯寺大名墓総合調査業務は、国指定史跡高野山奥之院の保護活用のために令和元年度にインデックスとしての悉皆調査報告書を刊行したが、今後銘文編を含めた悉皆調査報告書を刊行すべく、詳細調査を継続している。

伝世資料担当

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）

所蔵資料のコンディション調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は、令和4年度で17年目となる。博物館内では資料系の管轄業務として位置付けられており、館内会議にて教員からのオファーを募り状態調査対象が決定されている。

今年度からは館側の非常勤職員により状態調査を行っており、状態調査の指導及び確認業務を研究所が担当する形に変更され、新しい形態で実施した。引き続き令和5年度についても国立歴史民俗博物館と共同で館蔵品の状態調査を行っていくこととしている。

保存科学研究室

文化財を後世に伝えるには、保存処理後に資料の形状や表面状態などを定期的に調査することが必要である。また同時に、資料の劣化進行を抑えるためには収蔵環境が適切であるかを調査することも重要である。これらの調査の結果から、今後の改善策を提案している。

(公財) 大阪府文化財センター 近つ飛鳥博物館所蔵「大修羅」の保存状態調査

平成7年度以来、近つ飛鳥博物館の展示室内で大修羅の寸法計測や状態調査を継続している。部分的な補填材の経年劣化や薬剤の滲出箇所がみられるものの、大きな寸法変化などは生じておらず、おおむね良好な状態である。

埋蔵文化財保存研究グループ

金属製品・土器担当

堺市博物館（大阪府）

大塚山古墳基礎整理等業務

令和2年度より、堺市博物館が所有する百舌鳥大塚山古墳出土遺物について遺物の種類、数量、状態を把握し、今後の保存・復元・活用に向けた基礎整理を行った。

奈良市補助金事業

仏教民俗資料の収集調査 奈良市内所在石造文化財の調査（12）

奈良市内の石造物は、昭和58年から63年にかけて悉皆調査が行われ、平成元年に報告書が刊行された。そこでは、慶長期以前の重要な石塔資料が多数報告され、どのような石造物がどこに所在するのかが明らかになった。悉皆調査によって文化財保護・保存や歴史研究に重要な素材を提供されたが、個別具体的な調査が実施されたものは少ないのが現状である。

令和4年度も前年度に引き続き、奈良市内に所在する古式の宝篋印塔や五輪塔などについて詳細な調査を行った。実測調査は、土地所有者である興福寺の許可を得て中川寺跡（奈良市中ノ川町）に所在する伝実範上人供養塔で実施し、令和5年度に報告予定である。

情報開示は令和3年度に調査した称名寺（奈良市菖蒲池町）に所在する五輪塔について、考察を含めて『元興寺文化財研究所研究報告2022』に掲載した。『元興寺文化財研究所研究報告』は、奈良県内の教育委員会、図書館、博物館、大学などをはじめとする全国の文化財関連機関に配布する。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究室

文化財を自然科学的手法で分析することによって、その材質や構造等を明らかにし、産地や年代等を推定することができる。資料の顕微鏡観察、金属や顔料の蛍光X線分析、漆や繊維の赤外分光分析等を行う。

愛媛県

新谷古新谷遺跡出土ガラス小玉の分析

奈良国立博物館

経筒（伝福岡県出土）の分析

愛知芸術文化センター（名古屋市）

木村貞三コレクション金工品の分析

出土資料では、愛媛県今治市新谷古新谷遺跡から出土した弥生時代のガラス小玉約170点の蛍光X線分析を行い、カリガラス、ソーダ石灰ガラス、高アルミナソーダ石灰ガラスの3種に分類した。また、蛍光X線分析、微小部観察などを用いて奈良国立博物館所蔵「経筒（伝福岡県出土）」の材質や製作技法に関する分析を行った。

伝世資料では、愛知県美術館所蔵木村貞三コレクションの環頭大刀柄頭、経筒について蛍光X線分析、微小部観察、X線CT撮影を行い、状態調査および材質分析を行った。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査修復研究グループ

伝世資料担当

如宝寺（福島県郡山市）	重要文化財「笠塔婆」の保存修復
広島市	市指定重要有形文化財鉄燈籠の保存修理
知多市歴史民俗博物館（愛知県）	知多市歴史民俗博物館所蔵「藤井丸」の応急修理
名古屋大学	河川絵図の修復
大阪府河内長野市	引札の修復
舞鶴引揚記念館（京都府舞鶴市）	ユネスコ世界遺産登録資料の調査・保存処理

如宝寺の重要文化財石造「笠塔婆」は、令和3年2月13日に福島県沖で発生した震度6弱の地震により倒壊した。令和4年度は、倒壊により破損した笠部の破片を接着し、擬石処理を行った。

広島市安佐北区可部に所在する鉄製燈籠は文化5年(1808)の年号を有するもので、全高3mを超える広島市指定重要文化財である。平成11年度に当研究所で保存処理を施したが、露天という環境もあり劣化が進行した状態となっていたためクリーニングを行い、新たにアクリル樹脂による防錆、欠失部分の復元を行った。

知多市歴史民俗博物館所蔵の「藤井丸」は、木造船で帆柱を2本持った打瀬舟の形式の船で全長約15mの船である。特に船底の劣化が進行し、部材の破損や脱落が顕著となっていた。今回は応急修理として、脱落部材の接着等を行った。

文書・絵図類等の紙資料の修復事業は漉嵌法、繕い、裏打ちなどの技法を用い、資料の原形を損なわない修復を原則として進めている。

名古屋大学所蔵の河川絵図は令和2年度より継続し漉嵌法による修復を行った。

舞鶴引揚記念館には、ユネスコ世界記憶遺産に登録されている資料の他館蔵品としてシベリア抑留時の記憶を基にした絵画資料2千点余りがある。令和4年は、その絵画資料のうち60点の状態調査を行った。

埋蔵文化財保存研究グループ

木製品担当

福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存修理
------------------	-------------------

徳島県	重要文化財観音寺・敷地遺跡出土品の保存修理
宮崎県えびの市	島内 139 号地下式横穴墓出土漆製品の保存処理
鳥取市	史跡鳥取城跡出土桶の保存処理
岩手県平泉町	町内遺跡出土遺物の保存処理
石川県能登町	真脇遺跡出土遺物の保存処理

重要文化財の修理としては、徳島県・観音寺・敷地遺跡（飛鳥～平安）出土品の保存修理を行なったほか、福井県・鳥浜貝塚（縄文時代前期）出土品については昨年度から引き続き保存修理を行った。一部の出土品については、安全に保管するための保管台を作製した。

また、宮崎県えびの市・島内 139 号地下式横穴墓（古墳時代）出土矢柄等の脆弱な漆膜、鳥取県鳥取市・史跡鳥取城跡大手門の礎の下（16 世紀第 4 四半期頃）から出土した大型桶、岩手県平泉町・町内遺跡（志羅山遺跡や無量光院跡など）（平安時代末期）出土遺物の保存処理を行なった。令和 2 年度から継続してきた能登町・真脇遺跡（縄文時代前期～晩期）出土遺物についても保存処理を行なった。

金属製品・土器担当

<金属製品>

宗像大社（福岡県宗像市）	国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品の保存修理
福岡県行橋市	重要文化財稲童古墳群出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
松山市	重要文化財朝日谷 2 号墳出土品の保存修理
宮崎県えびの市	重要文化財島内地下式横穴墓出土品の保存修理
京都府京丹後市	重要文化財湯舟坂 2 号墳出土品の保存修理

宗像大社所蔵・国宝沖ノ島祭祀遺跡（古墳時代から奈良時代）出土品の保存修理は、令和 3 年度から第 3 期に入り、4 年継続での実施中で、令和 4 年度も引き続き作業を行った。

重要文化財の修理では、令和 3 年度から引き続いて福岡県・稲童古墳群（古墳時代）出土品、広島県・草戸千軒町遺跡（鎌倉時代から室町時代）出土品、愛媛県・朝日谷 2 号墳（古墳時代）出土品、宮崎県・島内地下式横穴墓（古墳時代）出土品の保存修理を行った。

また、令和 4 年度～令和 7 年度の予定で、新たに京都府・湯舟坂 2 号墳出土品（古墳時代）の保存修理に着手した。

<土器>

茨城県常陸大宮市	重要文化財茨城県泉坂下遺跡出土品の保存修理
徳島県	重要文化財徳島県矢野遺跡出土品の保存修理
松山市	重要文化財愛媛県朝日谷二号墳出土品の保存修理
文化庁	重要文化財出雲神原神社古墳出土品の保存修理
文化庁	重要文化財小郡若山遺跡出土品の保存修理
福岡県行橋市	文化財稲童古墳群出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理

重要文化財の修理としては、茨城県・泉坂下遺跡(弥生時代中期)出土壺形土器や徳島県・矢野遺跡(縄文時代後期初頭)出土深鉢形土器、愛媛県・朝日谷二号墳(古墳時代)出土壺形土器、福岡県・稲童古墳群(古墳時代)出土須恵器甕、広島県・草戸千軒町遺跡(鎌倉時代から室町時代)出土亀山焼甕の保存修理を実施した。また、文化庁所蔵品の出雲神原神社古墳(古墳時代)出土円筒形埴輪や小郡若山遺跡(弥生時代)出土甕形土器の保存修理を実施した。和歌山県・大日山 35 号墳(古墳時代後期)出土の 3 分割焼成の家形埴輪と胡籬形埴輪は、令和 4 年度から令和 6 年度にかけて保存修理を実施予定で、初年度の修理を行った。

文化財企画活用室

文化庁	重要文化財摂津奈良遺跡出土銅鐸鎔范の保存台作製業務
広島県立歴史博物館(福山市)	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存台の製作
常陸大宮市(茨城県)	重要文化財泉坂下遺跡出土品の保存修理
宮内庁正倉院事務所(奈良市)	正倉院宝物(甘竹簾)の保存台製作

各部門における保存台・保存箱の作製について統括・作製を行い、三次元計測を積極的に利用した保存台の作製だけでなく、復元・複製品の作製も含め積極的に事業を行った。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

展覧会の開催

秋季特別展

『開創 400 年記念 山の寺念仏寺 ―近世の南都浄土教寺院―』

※宗教法人元興寺と共催

開催期間 10 月 22 日(土)～11 月 13 日(日)

開催場所 元興寺法輪館

江戸時代初頭の浄土宗を代表する傑僧袋中良定(1552-1639)が、元和 8 年(1622)に南都に開いた降魔山善光院念仏寺の開創 400 年を記念し委託された「念仏寺寺史編纂および記念展覧会開催業務」に基づく展覧会である。念仏寺に所蔵される文化財の総合調査、袋中関係寺院の文化財調査を経て寺史の刊行及び展覧会の開催を実施した。

開山の袋中上人は、浄土教の研究や琉球での布教で知られる江戸時代初頭の浄土宗を代表する傑僧で、最晩年に活動の舞台としたのが南都や南山城であり、その拠点の一つとなったのが念仏寺であった。この時期の袋中上人は、徳川家康の異父弟・松平定勝をはじめとする多くの信者の帰依を得て各地に寺院を開創するとともに、智光曼陀羅や当麻曼陀羅の研究、一切経の蒐集など、南都仏教、とりわけ元興寺・都市奈良に根付いていた浄土信仰の伝統を踏まえて、独創的な教義・思想を打ち立てていった。

本展覧会では、当研究所員による念仏寺所蔵文化財調査の最新成果を踏まえ、自筆著作をはじめとする袋中上人ゆかりの名宝によって奈良におけるその足跡をたどるとともに、鎮守源九郎稲荷社への信仰の高まりや「開化天皇陵」の修陵など都市奈良のなかでの念仏寺の歩みを取りあげ、歴史都市奈良に紡がれてきた重層的な浄土信仰の一端を紹介した。

なお、本事業のうち念仏寺所蔵の文献資料調査は、本事業に先行して実施した2022年度東京大学史料編纂所一般共同研究課題「中・近世畿内寺院史料の調査・研究と研究資源化一般若寺および念仏寺を中心とする一」（研究代表者 服部光真）の成果に基づいている。

文化講座の開催

実践文化財学 講座編「保存科学から歴史を読むⅡ」

当研究所が創立以来半世紀以上にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究員がわかりやすく報告した。

場 所	総合文化財センター ルーパ館3階
時 間	13:30～15:00

第1回	6月8日（水）	「文化財の自然科学的観察」山口繁生
第2回	7月13日（水）	「民具研究と科学分析」桃井宏和
第3回	9月7日（水）	「古文書調査の実際」酒井雅規
第4回	10月12日（水）	「出土金属製品に残る有機質情報について」山岡奈美恵

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、積極的な広報を行わなかったため参加者は27名であった。

展覧会等の開催支援

文化財企画活用室

「発掘された日本列島2022」展

平成20年度から受託している文化庁と開催各館とが主催する『発掘された日本列島』展の開催と運営に関する業務では、令和4年度については令和3年度の3館から5館に開催館が戻って実施した。

令和4年度は、「新発見考古速報」、「我がまちが誇る遺跡」、特集「おうちで楽しむ埋蔵文化財」の三部で構成され、全国で実施されている発掘調査の成果だけでなく、地域において長年蓄積された調査研究の成果を含めて、これらを一堂に会しながら全国を巡回させ、埋蔵文化財のみならず史跡等の文化財に関しても広くその意義と重要性を国民に広報することを目的とされた。

「新発見考古速報展」では、近年発掘された遺跡で、発掘調査結果が全国的に注目された縄文時代から近代までの計14遺跡の紹介が行われ、約370点の資料が出陳された。

「我がまちが誇る遺跡」では、個性豊かな遺跡が紡ぎだす「地域の歴史の魅力」を幅広く発信しようとするもので、地方公共団体が作成した企画に基づき、展示を行った。今回は3つの企画を取り上げ、それぞれの地域における遺跡の継続的な調査研究から見えてきた、地域の人々が歩んだ歴史やその特色について、出土遺物と写真パネルの展示により解説する約150点の資料が出陳された。

特集では、近年利用が著しく進められている動画配信サイトやSNS等を利用した埋蔵文化財の情報発信について紹介した。文化庁の取り組みのほか、注目すべき取り組みを行っている地方公共団体等3つの組織の取り組みについて、パネル等の展示により紹介した。

業務内容は、本展出陳物の集荷・納品に係る梱包・輸送、ポスター・リーフレットなどの印刷・発送、出陳物の点検・展示・撤収、展示パネル・キャプションのほか関連資料の管理、開催予定各館との調整など多岐にわたった。

令和4年度の開催館は、次のとおり

埼玉県立歴史と民俗の博物館（さいたま市）

6月11日（土）～7月18日（月・祝）38日間

だて歴史文化ミュージアム（北海道伊達市）

7月30日（土）～9月4日（日）37日間

石巻市博物館（岩手県石巻市）

9月17日（土）～10月23日（日）37日間

宮崎県総合博物館（宮崎市）

11月5日（土）～12月11日（日）37日間

なら歴史芸術文化村（奈良県天理市）

1月7日（土）～2月12日（日）37日間

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内施設環境の管理と法輪館の展示管理業務等を行った。

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告2022』（1,300冊）

研究員が科学研究費等による研究活動や仕事を通じて得た新しい所見や発見について報告を行う年報として刊行した。

『念仏寺開創400年記念 袋中上人と山の寺念仏寺』

秋季特別展事業に併せて一般社団法人なら文化交流機構より刊行された図録を兼ねた寺史。什宝物の豊富な図版と最新の研究成果に基づいて解説した書籍である。

『華嚴宗元興寺所蔵彫刻調査報告書』

令和3・4年度に実施した華嚴宗元興寺所蔵の彫刻調査の成果および令和元年度に刊行した『華嚴宗元興寺所蔵歴史資料報告書』以降に見いだされた工芸品・瓦類の補遺報告をまとめ、報告書を刊行した。

『菅原遺跡 ―令和2年度発掘調査報告書―』

令和2年度に発掘調査を行った菅原遺跡（奈良市疋田町）の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『越智遺跡 ―令和3年度発掘調査報告書―』

令和3年度に発掘調査を行った越智遺跡（奈良県高市郡高取町与楽）の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『平城京左京三条四坊十一坪（H J G 1 6 次） ―令和3年度発掘調査報告書―』

令和3年度に発掘調査を行った奈良市平城京左京三条四坊十一坪の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

7. 体験活動等

施設見学等研究、調査成果を社会に還元し、文化財の保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として、博物館実習、職場体験、施設見学を受け入れた。

また、総合文化財センターにおいては、定期的に一般個人向けの施設見学会を開催した。

なお、大学等の団体見学については、感染予防対策を徹底したうえで業務に支障の無い範囲で日程を調整しながら随時受け入れた（8団体・215人）。

博物館実習の受け入れ

奈良大学（10名）、近畿大学（4名）、京都女子大学（5名）の計19名を受け入れた。

施設見学会

総合文化財センター開所以来、定期的に一般個人向けの施設見学会を募集・開催しており令和4年度は4回実施した。

開催日は、6月8日（水）、7月13日（水）、9月7日（水）、10月12日（水）の計4回実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、積極的な広報を行わなかったため参加者は15名であった。

その他

大谷大学（21人）、大阪大谷大学（14人）、大手前大学（3人）、京都府立大学（14人）、京都橘大学（35人）、シニアCITYカレッジ（60人）、12月5日にはJICAの研修を受け入れ（研修員13名の他5名で計18名）、講話と研究所内の案内を行った。